

英語

I

■出題のねらい

日本へ旅行に来る家族の予定を話し合う会話についての問題です。誰が来るのか、いつ日本へ到着し、いつハイキングへ出発するのか、またその他の予定など、たくさんの情報が入っていますので、情報を混同せず整理しながら読むことが求められます。

■採点講評

3 の正答率が40%台でした。3 の正答である depart は少しレベルの高い語ですが、depart の意味を知らなかったとしても前文の leave を手掛かりに文脈を捉え、消去法で正答を導くことができます。基本レベルの単語の意味をしっかりと理解し、自信をもって選択肢から除外できるようにしましょう。4 は正しくないものを選択しなければならず、選択肢を本文と照らし合わせながら細かい部分まで読み込んで正否を確認する必要があります。時間がかかりますが、まずは分かりやすい数字を手掛かりに読むべき箇所を見つけましょう。

II

■出題のねらい

スキー旅行の案内文に関する問題です。3種類のリフトがそれぞれどのようなスキーヤー向けのコースにつながっているのかを理解した上で、コースの特徴を整理しましょう。さらに、キャンペーンの内容についても問われていますが、書かれていることと書かれていないことをしっかりと読み分けて回答を選択することが大切です。

■採点講評

7 以外は正答率が50%を超えており、概ね良くできていたといえます。特に 8 の英問英答の問題は68%の正答率でした。英文の中で検める箇所が Kline's Canyon と限られているため、しっかりと正否を精査できたのかもしれませんが。一方で 7 の正答率は31%と低くなっていました。正答の選択肢②のように inconvenience を使うのは、利用者が何かを利用できなかったり、利用者に不便をかけたりの場合の定型表現です。ジャンル別文書の慣習的な表現を学習しておくといいでしょう。

Ⅲ

■出題のねらい

街の書店の減少傾向について、都道府県や市町村別に調査した結果にもとづくレポート記事を読み解く問題です。地図や文中の数字を正確に把握し、地域別の傾向を確実に理解することが求められています。また、オンライン書店の販売規則や公共図書館の貸出規則について制限を求める国会議員が連盟を組織しており、英文にはその提言内容も含まれています。どのような制限が課されると街の書店が保護されうるかを想像しながら、彼らの主張を理解しましょう。

■採点講評

11 の文脈に合わせた語を選択する問題は80%近い正答率になっていましたが、同じように文脈を辿る 7 の問題では30%を切っていました。7 は、直前の段落で物理的な店舗の減少が問題として具体的に取り上げられており、7 の含まれる段落ではそれに対する動きが紹介されています。「『どういった』書店を再度活発にするために尽力する議員のグループか」を考えると、正答が導けます。それ以外の問題でも、正答率は40%を切っていました。それぞれの都道府県における「書店がない、あるいは1店しかない」自治体の割合、という少し複雑な話題がテーマになっていますので、英文の内容と地図の情報を整理しながら読み進めることが大切です。

IV

■出題のねらい

渋谷区の小学5年生によるショッピングバッグの発案、製品化、販売の取り組みについての英文です。コロナ禍における低迷から復活の兆しを見せ始めている観光事業で地域に貢献したいという思いや、江戸川区の会社にアイデアを持ち込んで製品をより良くする過程、完成品の購入者の生の声を受けて児童が得た達成感など、重要な局面を押さえて全体の流れを正しく読み取ることが求められます。人数や価格などの数値情報を正確に把握することもポイントです。

■採点講評

下線部和訳の 20 の正答率は75%ほどで、類似した選択肢にも惑わされず正確に不定詞の部分を読み取れた受験生が多かったことがわかります。一方で、19 の正答率は20%を切っていました。② with を選択した受験生が多かったですが、正答は① in person 「直接」という熟語です。空所の問題では熟語を問われることも多いですので、基本的な熟語はしっかりと学習しておいてください。25 26 の本文の内容に合う記述を2つ選択する問題では、⑥を選んでいた受験生は多かったですが、⑤を選択するのが難しかったようです。⑤の内容は本文に直接書かれているわけではなく、本文の下から3行目、ショッピングバッグは「4つのデザインそれぞれが、異なる2つの色、異なる2つのサイズで展開されている」という記述から、全部で16種類あるということを読み取る必要があります。このように、本文の単純なサーチだけでは解答できない問題もしばしば出題されますので、本文を理解した上で選択肢をしっかりと吟味・解釈する力が必要になります。

V

■出題のねらい

1日に8,000歩以上の歩行を週に1～2回行うことで、10年後の死亡率の低下につながるという研究結果に関する新聞記事です。英文自体はそれほど難しくはありませんが、数字や比較表現が多く出てくるので、内容を整理しながら読み進める必要があります。並び替え問題では、助動詞や動名詞、関係代名詞の省略、比較の強調表現を問いかけています。空白の前後との文法的な整合性も考える必要がありますので、全体をよく見ながら問題に取り組みましょう。

■採点講評

並べ替え問題 は正答率33%で、大問Vの中では最も正答率が低かったです。正しい並べ替えの順序は、the relationship between “the number of steps people walk” and their health で、between A and B の形が使われていますが、本文では their health の後ろにも and がありますので、どれが A と B に当たるのかの判断が難しかったかもしれません。一方で、内容に合う英文を選択する の正答率は60%を超えており、数字や比較表現がたくさん用いられているにもかかわらずしっかりと本文を読めている受験生が多いことがわかります。